特集 Special Issue

まちづくり講座・仕事おこし講座の展開から
ー地域で無数のコモンズをつくるー

労働者協同組合法第１条には、「多様な就労の機会を創出することを促進するとともに、当該組織（労働者協同組合）を通じて地域における多様な需要に応じた事業が行われることを促進し、もって持続可能で活力ある地域社会の実現に資することを目的とする」とある。この「多様な就労の機会を創出する」ときの出発点として、多様な方々が集まり話し合える場づくりが大切になる。協同労働での仕事おこしを推進するために作成された『協同ではたらくガイドブック入門編』「協同ではたらくガイドブック実践編」（協同総研発刊）でも、協同労働による話し合う場のあり方を言及しているが、本号では、話し合う場として、具体的にセンター事業団の各事業所が開催してきた「まちづくり講座」「仕事おこし講座」を中心に取り上げた。本号の狙いは、協同労働による市民自治の仕事おこし、まちづくりを推進するために、より地域で講座を開催するための基礎資料を共有することである。

資料として、2022年２月に開催された「まちづくり講座・仕事おこし講座戦略会議」の田中羊子さんのメモをまずは御覧いただき、講座の目的を見た上で、読み進めていただきたい。

北海道の取り組みは、センター事業団の苫小牧市と札幌市手稲区での講座を掲載している。苫小牧市では2019年に「地域にみんなの居場所をつくろう」とテーマに５回講座を開催し、現在、「フェアトレードタウン苫小牧」の認定を目指して活動が進められている。手稲区では2019年に講座を開催し、それがきっかけとなり2022年11月に「ていね　みんなのおうち　にぎや家」が開所した。講座から具体的な居場所がつくられたことは講座の具体的な成果が生まれた貴重な実践だと考えている。

埼玉県戸田市の実践では、2022年４月からのまちづくり講座の内容を掲載した。講座では「住み慣れた地域で生きがい・やりがいを見つけてみませんか」をテーマに４回シリーズで開催し、その後、映画上映会、講座受講生とフードパントリーを開催した。多様な市民と多く出会うなかで、その方々が主体となるまちづくりを進めている。

東京都小平市の実践では、2021年９月からまちづくり講座（全６回）・仕事おこし講座（全２回）、2022年６月もまちづくり講座を開講した。その受講生たちとカフェカムカム（認知症カフェ）を日曜日閉所しているセンター事業団の現場を活用して開催している。小平の特徴は、認知症カフェを開設する実態をつくっていることと、ワーカーズコープで働

く仲間が生まれていること、現場訪問や映画上映など、より協同労働の働き方を身近に感じたり、深めたりする内容を展開しているところにある。

埼玉県坂戸市の実践では、2021年の６月から仕事おこし講座を３回開催している。そのなかで、コミュニティFMを立ち上げたいグループ、カフェを立ち上げたいグループが出て、一部は坂戸の事業所で組合員として働き始めている。坂戸の特徴は仕事おこし講座だけではなく、生活支援体制整備事業（生活支援コーディネーター１層、２層）を受託し、多様な講座とネットワークを連続的につくり、つながっていることである。多様な講座から出会いが生まれ、坂戸市のまちづくりに関わる主体が生まれることがわかる報告となっている。

福岡県福岡市東区にある福寿の実践では、2022年10月から５回にわたりまちづくり講座を開催した。まちづくり講座から４つのグループ「大人の居酒屋･子どもたちのカフェ･家庭菜園」「男性たちのデイサービス」「大人の書道教室とおしゃべり会」「地域で支え合うためのネットワークづくり」が生まれた。多様な方々が事業所に出入りするなかで、事業所が介護分野にとどまらない役割を担い始めている。そして、地域懇談会や実行委員会を通じて、参加者がまちづくり講座の主体になっていくことは、ワーカーズコープが主催する講座から、地域住民が主体となる講座だったことを感じさせる報告である。

福井県福井市の福井事業所の実践では、2022年10月に４回まちづくり講座を開催した。2022年社会福祉振興助成事業（WAM）等を受託し、「居場所づくり」を推進し、「まちづくり講座」を開講するなかで、地域に飛び出すなかで働く仲間の想いを中心に掲載した。３年間の福井事業所の歴史を振り返りながら、まちづくり講座等地域づくりをする上での職員の心情の変化と地域にある事業所のあり方を考える報告である。

東京都三鷹市での実践は、2022年９月から６回の「働くこと再発見」講座を開催し、その後、講座の振り返りシンポジウムの内容を掲載した。講座後、受講生が協同労働で立ち上げていた「野の」のシェアキッチン事業に参画したり、ワーカーズコープの現場に訪問している。労働者協同組合がない空白地で講座を開講したこと、団体が連帯して仕事おこしが生まれていること、「働くこと」を中心テーマに据えた講座となった。

講座では「夢・希望・困りごと・悩み」とともに、地域の過去・現在・未来のあり方を考える場になった。そのような多様な人が暮らす地域で、自分のことを話せる場、他の方と交流しあえる場などの「出会う場」をどれだけつくるのかが、持続可能で活力ある地域社会づくりの入口になるのではないか。そこから､ありたい姿を目指すための「コモンズ」（社会的共有財産）をつくることが、多様な就労・居場所をつくるプロセスには欠かせないものであると考えている。本号を通じて、地域で暮らす・働く・学ぶなどの生きる意味を考え、地域での出番や役割を見出すきっかけになる講座が、数多く生まれることを期待したい。

相良　孝雄（協同総合研究所　事務局長）